

議会だより



なかさつない



まちづくりについて多くの提言がされた (中学3年生による模擬議会より)

12月定例会	p 2 ~ 5
条例改正、補正予算	p 2 ~ 3
請願、議員派遣、お知らせ	p 3
一般質問～4人の議員が登壇～	p 4 ~ 5
第5回臨時会・新庁舎特別委員会	p 6
委員会の活動、中学生模擬議会	p 7
村と議会のあゆみ (開村70周年記念特集) ...	p 8

平成29年12月村議会定例会

中札内村議会定例会は12月8日に招集され、会期を15日までの8日間とし、請願1件を採択、報告1件、議案13件を原案可決しました。15日は4人の議員が一般質問を行い閉会しました。

条例改正

◇中札内村大規模草地育成牧場条例の一部改正

牧場使用料の夏季放牧料と冬季舎飼料を改定するもので、夏季放牧料は、小型ピロプラズマ病対策薬剤費の増額を預託者に負担していただくため、一日一頭当たり15円増額し、村内牛は250円に、村外牛は305円に改定し、冬季舎飼料は、新牛舎建設に伴う地方債償還金増額分について預託者に負担していただくため、一日一頭当たり45円増額し、村内牛は570円に、村外牛は775円に改定するため、条例の一部を改正するものです。

- ◇中札内村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
- ◇中札内村長等の給与等に関する条例の一部改正
- ◇職員給与に関する条例の一部改正

(3件一括提案)

国家公務員の給料及び勤勉手当等の改定に準じて3条例の一部を改正するものです。

牧場使用料値上げへ

問 これらの値上げにより、牧場使用料の年間増加額はどの程度になる見込みなのか。また、村外牛の割合はどの程度なのか。

答 年間増加額は、690万円程度になり、村外牛の受入れは現在のところない。

問 牧場運営審議会からは何か意見はあったのか。

答 今後とも老朽化していく牛舎の改修などが想定され、補助事業採択による財源確保と酪農支援という立場で検討を進められたいなどの意見が出された。



供用が開始されている新牛舎

補正予算

一般会計・特別会計補正予算審議の中で質疑のあった主なものを掲載します。

企画一般経費

バス路線維持への努力を

(地方バス路線維持対策補助金)

75万9千円

問 乗車人数の伸び悩みにより、今後も負担金は増加していくのか。

答 負担金増加の要因は、乗客数減のほか、バスターミナル改築やドライバー不足に対応する育成費などの経費増によるもので、負担金が増とならぬよう、貨客混載などの収入増の努力がされている。

提言 高齢者の免許証返上による不安をなくすためにも、便数減にならぬよう利用しやすいバス路線維持に努力されたい。



村民の足として維持が不可欠な広尾線バス

教育振興費

入学準備金前倒し給付

(入学準備費)

25万2千円

問 入学準備に間に合うよう3月に給付するのか。

答 質問のとおり、これまで事後給付していたが、必要とされる時期に給付する。



福祉灯油を支給

(福祉灯油)

130万円

問 灯油価格が下がった場合も支給することにされたが、今後もそのようにされるのか。

答 これまでは基準単価より5%以上単価が上まわる場合に支給対象としていたが、今後は単価に関係なく支給する。

問 灯油以外の燃料を使用している世帯には、灯油券でなく現金支給でも行うのか。

答 本人からの申出により、現金ではなく村に限定した商品券で支給する。

ろ過池作業経費の減少

(ろ過池等作業賃金)
(ろ過池清掃委託)

△60万円
△96万2千円

問 ろ過池維持費が執行減となった理由は。

答 台風の影響で原水が濁り、取水停止していた期間があった。そのことで、通年はろ過用砂洗いなどの作業を2回行っているが、今年度は1回で間に合った事による。



原水が濁り、一時取水停止していた南札内浄水場

住宅修繕体制の確保を

(修繕等賃金)
(修繕料)

△287万4千円
280万円

問 住宅の修繕業務は、嘱託職員による直営体制から業者修繕に変わったが、修繕要望にはスムーズに対応できているのか。

答 直営でやれていた修繕は、業者が行うことで時間がかかっているが、入居者と協議し理解をいただきながら対応している。

提言 直営で修繕を行うことで、早く細やかな対応ができる体制に戻すよう、技能職員の確保を検討をされたい。



競争入札で売払いを

(立木売払)

83万4千円

問 高く売れたことで収入追加されたが、一般競争入札による執行だったのか。

答 3社による見積合せにより発注した。

提言 少しでも高く売るため、広く一般競争入札に付する事も検討されたい。

◇平昌オリンピックへ議員派遣◇

開村70周年記念事業
「平昌オリンピック応援・観戦事業」

日 時 平成30年2月18日～22日
場 所 韓国平昌
目 的

村が行う当該事業に参加し、将来オリンピック出場の可能性をもつ中札内村の児童・生徒などと一緒に世界最高峰レベルの競技を観戦し、その夢や目標を共有することにより、本村のスポーツ振興や教育的施策に議会としても積極的に参画していくことを目的とする。

派遣議員 産業文教常任委員長 北嶋 信昭

◇請願を採択◇

◆平成30年度畜産物価格決定等に関する請願

北海道の酪農・畜産は、国民への安全で良質な牛乳・乳製品及び畜肉の安定供給という重要な使命を担い、乳業や食肉加工業など幅広い関連産業を通じて地域の雇用や経済を支えています。

しかし、北海道酪農といえども、飼養農家戸数や乳用牛頭数の減少という現実があることや、TPP協定や日EU・EPA交渉などにより、牛肉・豚肉や乳製品市場は、これまでに経験したことのない高い水準の自由化が迫られています。

牛乳・乳製品及び畜産物の安定供給、地域経済・社会を支える家族経営・農業法人を中核とする酪農・畜産の持続的な発展を図るため、平成30年度においても酪農・畜産政策の推進と必要な予算措置を関係機関に要望されるよう請願します。

提出者
中札内村農民同盟

—請願は採択となり、同趣旨の意見書を関係機関等に提出しました。—

～お知らせ～

3月定例会は3月上旬から中旬にかけて行なわれる予定です。3月定例会の内容は、一般質問と議案の審査で、主に新年度予算案について審議されます。

私たちの住むまちの議会をあなたも傍聴してみませんか。詳しい日程が決まりましたら情報無線でお知らせします。

一般質問

黒田議員

北嶋議員

一般質問では、議員が行政全般の事務の執行状況や将来の方針などの報告・説明を求めて質問しました。

の 用
園 活
公 利

今後の活用や売却は

森田村長

住民意見を聞き検討

北嶋議員



北嶋信昭議員

村内には、中央公園をはじめとする沢山の公園があり、維持管理がよくされていますが、村民が利用されている光景は見かけません。維持管理するからには、多くの村民に利用される工夫が必要かと思えますので伺います。

①利用促進についての考えは。
②他の用途で利用する人がいれば、公園用地を売却する考えはあるのか。

森田村長

村では、これまで自然と緑を大切に住民の憩いの場、心身と健康の増進を図ることなどを目的に多くの公園を設置しています。

また、利用頻度が少なくても大切な場所と受止めておられる方もいると思います。一部

の公園については、災害時の一時避難場所にも指定されており、市街地における樹木等との共生の重要性も指摘されており、基本的には今後も維持管理に努める考えです。

しかし、まちづくりアンケートでは公園や緑地の整備に力を入れて欲しいとの回答が50%を超えており、今後の公園のあり方については、住民の皆さんの意見が反映できるように検討していきます。

また、公園用地の売却については、市街地形成のあり方も想定しながら対応する必要があると考えています。



利用者が少ない中央公園

新 年 度
予 算 編 成

新たな施策等は

森田村長

公約実現に向け編成

黒田議員



黒田和弘議員

森田村長にとって初めての予算編成ですが、「第6期まちづくり計画」後期計画及び実施計画を基本に進めると思っています。

当然その中には、32項目の公約等も考慮して整合性を図ると考えますが、現時点で、来年度実施を考えている新たな施策及び主要な施策と、公約中の「高齢者への除雪サービスの充実及び住民にやさしい除雪方法の導入」、とりわけ除排雪方法の改善について伺います。

森田村長

32項目の公約は、すべて平成30年度から4年間の後期計

画及び実施計画に盛り込み、新年度から「定住促進策拡充、高校生通学費用・下宿費用助成、各種検定受験料の助成、庭木枝や落ち葉・草花等のごみ無料化」等々を実施する考えであり、予算編成で具体化します。

除排雪方法の改善ですが、住民から除雪直後の住宅間口付近の雪のかたまり等の苦情も寄せられており、除雪と同時に排雪を行う更別村の除雪方法を、現地に向いて調査をしており、来シーズンに向けて除排雪を委託している村企業体とも協議し引続き研究します。



市街地除排雪作業の様子

会 社 福 祉 一 連 の 問 題

村の対応は

森田村長

早期正常化に向け助言

中井議員



中井康雄議員

ポロシリ福祉会の役員解任騒動については、それぞれの関係者、職員、そして利用者等が納得のいく解決ができたのか疑問に思っていますが、村として内容を把握していたのか、どのような対応をしたのか、今後の対応はどのようになっているのか伺います。

森田村長

村は、ポロシリ福祉会が開催する理事会や評議員会に係職員が立会し、そこで話合われた内容について概ね把握しています。

12月上旬、法人理事長等役員にお越しいただき、これまでの経過と今後の方向性につ

スマート農業の実

ドローンの活用は

森田村長

調査研究に取組む

宮部議員



宮部修一議員

今迄の農業は、農家もノウハウや経験、勘によって培われている部分が非常に多く、生産性を上げることや、後継者に技術を伝えることに多くの時間を要していました。今後は、ICT（情報通信技術）とドローンの融合による精密農業や超省力生産、高品質生産を実現するスマート農業を目指していく流れにあるように思います。

今後、村としてもドローンを活用したスマート農業の確立に、農業者、JAと共に取り組み、支援・協力して行く考えはないのか伺います。

森田村長

農業が抱えるさまざまな課題を解決し、変革をもたらすものとして期待されているのが、ICTを活用したロボットやドローンなどに代表される「スマート農業」です。

ICTを活用した技術は日々進歩し、農業の中にも新しい技術として取入れられており、村としては、新年度から地域担い手育成総合支援協議会と連携し、ドローンの活用を含めたスマート農業の導入について、調査や研究に取組むとともに、農業者等に対してどのような支援ができるかを検討していきます。



入居者が安心して生活できる運営の維持を



ドローンによる農薬散布の様子

第5回臨時会

第5回臨時会は平成29年11月28日に開会し、一日の会期で承認1件、議案2件を審議し、原案を可決して閉会しました。

承認

◇一般会計補正予算の専決処分承認
衆議院議員選挙の執行のため予算が必要となったことと、エゾシカ捕獲頭数の増加により焼却炉使用料を追加補正する必要が生じ、議決を得る時間的余裕がなかったことから、地方自治法第179条第1項の規定に基づき専決処分をしたものです。

○衆議院議員選挙費
(報酬、需用費、委託料など)

310万6千円

○有害鳥獣対策費
(使用料及び賃借料)

66万6千円

条例の改正

◇中札内村長の期末手当の特例に関する条例の制定

村長公約の一つで、トップとしての姿勢を示すため、任期中に限り期末手当15%役職加算を凍結する条例を制定するものです。

補正予算

◇一般会計補正予算

村長の期末手当の特例に関する条例の制定と中途任期に伴う期末手当の減額、平昌オリンピック参加者への補助金を追加する補正を行うものです。

○特別職人件費(期末手当等)

△53万1千円

○社会教育一般経費(旅費)

169万8千円

○体育振興費(負担金補助)

154万4千円

問

ツアーへの応募状況は。

答

現在まで10名の募集に対し、一般1名と中学生6名の応募がある。

問

村出身者が出場されない場合は、事業の実施はどうされるのか。

答

村出身者で有力な候補選手がおり、選考され現地で力強く応援ができることを願っているが、本村でスピードスケートに取組んでいる子ども達に将来オリンピックを目指し、夢や目標を持つてもらうための事業と捉え、選考結果の如何に関わらず事業を進める。

お知らせ

押切美沙紀選手が、平昌オリンピックスケートスピードスケート5000mの日本代表にみごと選出されました。2月16日に文化創造センターにおいて「平昌オリンピック日本代表選手を応援する会」主催によるパブリックビューイングが開催されます。

中札内村新庁舎建設調査特別委員会

岩内町・黒松内町 新庁舎視察調査

日時 10月30日・31日
場所 岩内町・黒松内町
調査の内容

特別委員会は、役場新庁舎建設委員会の視察調査に同行し、平成27年度に建設された岩内町と黒松内町の新庁舎の視察調査を行い、建設場所、ユニバーサルデザイン、窓口機能、防災拠点、議場の在り方などの観点で各委員からの意見や提案についてまとめ、今後の基本設計発注の参考とされるよう森田村長に報告しました。その一部を記載します。

岩内町は1階に窓口を集約し、受付表示は課名や係名ではなく窓口サービスが表示され、その説明も記されており、大変分かりやすく整理されていました。本村でも参考とし、住民目線に立った窓口機能や案内方法の検討をする必要があります。

また、窓口近くには相談室が複数設置されており、プライバシーへの配慮から、相談者も安心して相談ができる環境と感じました。

黒松内町では、議場が多目的に使用できるよう可動席や可動演台などの仕掛けがされていました。しかし、これまで一度も他の目的で使用されたことがなく、本村議場も多目的利用を考える際には無駄な投資とならぬよう、多目的の使用用途をしっかりと定め活用されなければなりません。



来庁者に分かりやすい表示がされている窓口(岩内町)

委員会の活動

総務 厚生 産業 文教

常任委員会

常任委員会

村内合同所管事務調査

昨年10月6日に、札内川上流地域の状況と今年度実施の工事現場や札内川園地などの村内施設を調査しました。

★道道静内・中札内線道路及び上流地域

道道静内・中札内線の道路でも昨年の台風災害の痕跡が確認できました。国有林管理者などの関係機関にもなだれ対策の実施を求めると、水源地である札内川上流地域と道路が、引続き適正に維持管理されるよう求めます。



土砂崩れの痕跡が残る札内川上流の山肌

★札内川園地・山岳センター

台風の爪痕が残るキャンプ場周辺に、安全対策として仮の進入防止柵が設置されていますが、恒久施設にするなどの対策が必要です。また、キャンプ場は、年々利用者が増加している人気の場所であり、観光地としての札内川園地の在り方について整理されるよう求めます。

山岳センターの展示室は、映像コーナーなどが再整備されています。今後の観覧来場者の増加に期待します。

★大規模草地育成牧場牛舎建設現場

冬季舎飼いの受入れ希望頭数に牛舎規模が不足していることから、240頭規模の牛舎建設工事が進められています。本格工事は冬季間での工事になり、安全に留意し完成に向けての努力を望むとともに、今後の酪農振興の発展に期待します。

★村道59号災害復旧現場

昨年の台風で被害を受けた村道59号道路の復旧工事は、既に完成していましたが、同じ被害を受けぬよう、道路路盤の下に横断パイプを埋設し雨水を分散排水する工法が施されていました。効果を発揮し、大雨時にも道路機能が維持されることを期待します。



復旧工事を終えた村道59号道路

★上札内交流館防災備品整備

災害避難時の備えとして食糧品や日用品などが備蓄されています。食料品は50食の備蓄でしたが、適正量の保管を望みます。また、冬季の対策として、無電源ストーブ配備や非常用電源確保の必要性を感じました。

★ふれあい団地

完成後も一世帯の入居にとどまり、対策として入居条件緩和と居住設備・備品の充実が図られました。また、住宅内は、バリアフリー化や収納の工夫など、快適な環境と感じました。これらの利点を情報発信し、入居が促進され、若年者層の移住・定住に寄与するよう求めます。

★道の駅「花水山、大型車駐車場」

大型車駐車場は、利用客で混み合う土日、祭日は普通車が駐車しています。使いやすい大型車駐車場であるよう、課題解決を求めます。

花水山の増築とベンチの拡充は、来場者の利便性向

上に効果を発揮しています。道の駅は本村の観光拠点であり、今後一層の発展に期待します。



増築し拡充された物産直売所「花水山」

中学校生徒による模擬議会の開催

12月11日に、中学校3年生による模擬議会が議場で行われ、26名の生徒が、福祉、教育、医療、観光、産業の5グループに分かれて、温泉施設の整備による活性化や、くるくる号の利用しやすさ、診療所の利用者増のための提案などがされ、役場課長から現状やその対応の考えについて答弁がされました。

最終活発な意見が出され、事前準備を経ることで議会の仕組みを知ることやまちづくりの意識を持つきっかけとなったのではないかと思います。

開村70周年記念特集

村と議会の歩み

平成29年は開村70周年の節目となる年でした。

今号で、平成20年からの10年間の村と議会の歩みを振り返ってみました。

歴代議長名などと主な出来事は別紙「開村から70年間の議会年表」を添付しています。

なお、10年前の議会だよりで、「60年間の議会の歩み」について特集しており、当時の記事につきましては議会事務局にて閲覧できます。

村の状況

この10年間は、基幹産業である農業のえだ豆のブランド化などによる堅調な成長に支えられ、合併論議を経て自律を選択したことで懸念されていた村財政への圧迫も特段の影響もなく、比較的安定した行政運営がなされてきました。また、移住・定住施策として造成された宅地分譲地「ヴィレッジときわ野」の販売やえだ豆工場の就労者増などにより、人口は横ばいから微減で推移してきています。

中札内IC開通

平成20年11月には、帯広尾自動車道中札内ICが開通し、帯広空港との近接に加え、高速ネットワークの接続により、地域間交流や物流の効率化などの向上が図られました。



開通式テープカットの様子。国会議員も参列

道の駅の来客数増

道の駅なかさつないは、運営者の努力や地域間交流向上などの効果により、年間入込み客数が70万人を超える道内屈指の道の駅として、今日に至っています。

オリンピック出場

平成20年2月に行われたバンクーバー冬季五輪に、石澤志保さんが村出身者で初めてスケート種目でオリンピック

出場を果たしました。4年後のソチ冬季五輪には、石澤さんと押切美沙紀さんが出場され、スケートに励んでいる村の子ども達に、夢や希望がもたらされました。

また、本村にゆかりのある及川佑さんは、トリノ冬季五輪から3大会連続のオリンピック出場を果たしています。



石澤さんと押切さんには村民栄誉賞が授与され議会提案によりメモリアルコーナーが設置された

北の大地ビエンナーレ終了

平成7年にスタートした全国絵画公募展「中札内村北の大地ビエンナーレ」が、平成27年の第10回をもって終了しました。

花と緑とアートの村として中札内美術村とともに全国に中札内村を発信し、文化の村づくりを支えてきた事業でした。

台風被害

平成28年8月の台風は、十勝管内に甚大な被害をもたらした。本村では、札内川築堤の一部決壊や冠水による農業被害、道路や橋梁の崩落、札内川園地バンガローの流失などの被害を受けました。

議会は被災地の調査などを行い、防災の備えのあり方などについて村に提言しました。

川越市議会訪問

平成28年11月に、村議会議員全員で川越市議会を表敬訪問し、産業交流についての懇談も行い、翌年には川越市丸広百貨店内に中札内村のアンテナショップを開店するに至りました。



川越市議会での懇談の様子
産業交流についても意見交換された

議員

昨年6月に、森田議員（当時）が辞職して村長選に出馬し、森田村政が新たにスタートしました。

同時に公布された議員補欠選挙には立候補者がなく、欠員となっています。議員のなり手不足が全国的な話題となっており、その象徴としてマスコミにも取上げられました。

この10年間では、現職議員で笠松直氏が平成26年4月に亡くなられました。

編集後記

節分は季節の分かれ目を指していることから年に4回あり、その中でも立春が旧暦では新年の始まりの節目だったため、2月の節分が重要視されているのだそうです。

「福は内、鬼は外」、厄を払い福来る一年でありますように。

今年も見やすい「議会だより」づくりに努めます。
（広報特別委員会）